

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際社会学部	国際社会学科	夜・通信	48			48	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kyoai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/04/cec2321d5c88b33339700745d5563169.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018pr-1.pdf>
事業報告書2ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	平成30年4月1日 ～ 令和4年3月31日	コンプライアンス
非常勤	(株)群馬総合ガードシステム会長	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	経営、ガバナンス
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバス前年度の 12 月から 1 月末までに各授業担当者が MIDS シラバス登録により作成し、2 月から 3 月にかけて担当者並びに各コース長が確認し、3 月中旬に公表している。シラバスには、概要、到達目標、共愛 12 の力との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、アセスメントポリシー及び評価方法、教材、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業以外に必要な学修時間等を記載している。 本学のシラバス記入は多岐にわたっているため、学生が履修前に必要事項を把握する上で、十分な情報を提供している。学生がシラバスの内容を確実に把握・理解した上で履修開始した上で履修開始ができるよう第 1 回目の授業を「シラバス授業」と呼び、担当教員は、授業の目標、15 週の流れ、成績評価の方法などシラバス内容の説明した後に、授業を開始している。そのため、学生は履修を決めるにあたって、シラバスの内容を正確に把握することができる。	
授業計画書の公表方法	http://sy.kyoai.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価に関して、評価方法・評価基準をシラバスに記載し、シラバス授業で必ず説明している。授業アンケートを学期の途中に実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善している。学生も MIDS システムにより自身の履修科目や出席状況、成績や修得単位数などを確認することができる。なお、ポートフォリオを運用しており、学修成果指標とその評価のためのコモンルーブリックが策定され、成果を検証しながら学生と教員との振り返りを経て、次期の学修計画に活かされている。

成績評価

秀	90～100 点 (受講者の 10%以内)
優	80～100 点
良	70～79 点
可	60～69 点
認	単位認定
不可	59 点以下 (不合格)
欠席	試験受験せず
抹消	受験資格なし

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績を総合的に判定する方法として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPAは成績評価のうち「秀」を「5」として以下、優=4、良=3、可=2、不可=1として5ポイント満点で集計している。

本学では特待生の継続審査や学業奨励賞や奨学金の審査などに利用している。2～3年次の特待生の継続、学業奨励賞は年間のGPAを審査対象としている。4年生の学業奨励賞は通算を審査対象としている。

※4年生の学業奨励賞を除き1・2年生は年間13科目以上、3年生では年間10科目以上修得していることが特待生の継続や学業奨励賞の審査条件となっている(教職単位を含む)。長期留学参加者や長期インターンシップ参加者の特待生継続審査は学年に係らず8科目以上修得していることが審査の条件となっている。なお、複数年にわたって履修する科目(介護等体験や教育実習事前事後指導など)については、成績が出た年の科目数及びGPAとしてカウントする。

積算方法	年間	$\frac{((S \text{ 秀} \times 5) + (A \text{ 優} \times 4) + (B \text{ 良} \times 3) + (C \text{ 可} \times 2) + (D \text{ 不可} + E \text{ 欠席} + F \text{ 抹消}))}{(S \text{ 秀} + A \text{ 優} + B \text{ 良} + C \text{ 可} + D \text{ 不可} + E \text{ 欠席} + F \text{ 抹消})}$
	通算	$((S \text{ 秀} \times 5) + (A \text{ 優} \times 4) + (B \text{ 良} \times 3) + (C \text{ 可} \times 2)) \div (S \text{ 秀} + A \text{ 優} + B \text{ 良} + C \text{ 可})$

客観的な指標の算出方法の公表方法

<https://www.kyoai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/04/2d2c7c78b4dc512984fe636410d22fe7.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学位授与基準については、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる124単位を修得した学生に対し」、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士（国際社会）を授与するとしている。

1. 地域社会への諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

また、各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めている。

124単位の内訳については、卒業要件として「履修規程」に明示し、履修ガイドや学生webで公開している。

学位の授与は、学則第4章第7条2項により、教授会の審議を経て、学長の決定事項となっている。決定までの手続は、教務グループ会議において卒業判定資料を作成、合否を審議し、次に教授会で卒業判定資料に基づき、合否を審議し、最終的に学長が認定する。

科目区分と必要取得単位数

区 分	単位数	備 考
外国語科目	14 単位以上	必修 12 単位・選択 2 単位
共愛コア科目	20 単位以上	必修 6 単位、選択必修 2 単位、履修必修 6 単位を含む。各群から平均的に履修するのが望ましい。
専門科目	62 単位以上	*コースによって履修方法が異なります。
演習	12 単位	すべて必修
個性的選択	16 単位以上	専門科目、自由選択科目から自由に履修してください。共愛コア科目からの読替えも可。
合 計	124 単位以上	

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.kyoai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2015/04/89b183c1543b543d25cf974ad5079080.pdf>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018sa.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018sa.pdf
財産目録	https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018ip.pdf
事業報告書	https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018pr-2.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.edu.kyoai.ac.jp/account/2018/2018ar.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kyoai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2009/11/3b885b084521cf378669c8c2cc83567d-1.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際社会学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.kyoai.ac.jp/?p=6)
(概要) 本学は、「共愛・共生の精神」を基本理念とし、国際社会学部のみを教育組織として もつ単科大学です。「国際社会学部」は、「グローバル」をキーワードに「国際社会の あり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処すること のできる人材の養成」をその教育目的としています。ここでいう「国際社会」とは、国 境を越えて生成拡大しつつある生活世界の総体、人間生活の場を意味しています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : 公表方法 : https://www.kyoai.ac.jp/?p=6)
(概要) 学位授与基準については、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、 かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・个性的選択科目などからなる 124 単位を修得した学生に対し」、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士 (国際 社会) を授与します。 1. 地域社会への諸課題への対応能力 2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見 3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能 4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力 また、各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.kyoai.ac.jp/?p=6)
(概要) 本学では、「共愛＝共生の精神」という教育の理念と目的に基づき、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた諸能力を修得した人材を育成します。そのために、 次の 5 つを教育の基本方針に据えます。 1. キリスト教に基づく全人教育 2. 国際性豊かな人材養成 3. 学究的精神並びに態度の涵養 4. 知恵ある人の育成 5. 実社会との主体的な交流・体験の機会提供 この基本方針を踏まえ、共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目などの科目群 により教育課程を体系的に編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.kyoai.ac.jp/?p=6)
(概要) 1888 年 (明治 21 年) に設立された共愛学園は、百二十余年にわたり共愛の精神をそ の教育の柱に据えてきました。本学は、共愛の精神とはすなわち、今日的に換言すれ ば共生の精神であると捉え、「共愛＝共生の精神」を建学の理念としています。 また、本学に設置される国際社会学部は、「国際社会の在り方について見識と洞察 力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成」を目 的としています。 この理念と目的をふまえ、本学では次のような素養をもつ人物の入学を期待していま す。

1. 自分と他者を愛し、社会と共に生きていこうとする精神をもっている人
2. 常に世界に視野を広げながら、地域社会を大切に思う人
3. 自ら主体的に学ぶ意欲があり、他者と協力して学習・活動に参画できる人
4. 大学での学びに必要な能力—基礎的な学力、コミュニケーション力、思考力、文章力、問題発見力など—をもっている人
5. スポーツや芸術、社会活動に積極的に取り組んでいる人
6. 本学と志望するコースの教育内容をよく理解した上で、本学と志望コースでの学修を強く望んでいる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kyoai.ac.jp/?p=3064>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）								
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計	
—	3人	—					3人	
国際社会	—	21人	6人	3人	人	人	30人	
	—	人	人	人	人	人	人	
b. 教員数（兼務者）								
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計	
人			82人				82人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)			公表方法： https:// www.kyoai. ac. jp/?p=3064					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）								

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際社会	255人	284人	111%	965人	1,124人	116%	0人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	255人	284人	111%	965人	1,124人	116%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際社会	223人 (100%)	3人 (1%)	202人 (91%)	18人 (8%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	223人 (100%)	3人 (1%)	202人 (91%)	18人 (8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスには、概要、到達目標、共愛12の力との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、アセスメントポリシー及び評価方法、教材、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業以外に必要な学修時間等を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価に関して、評価方法・評価基準をシラバスに記載し、シラバス授業で必ず説明している。授業アンケートを学期の途中に実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善している。 本学は、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる124単位を修得した学生に対し」、学士（国際社会）を授与している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際社会	国際社会	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kyoai.ac.jp/?p=386>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
国際社会	国際社会	612,000 円	250,000 円	380,000 円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>修学支援については、学生センター、図書館センター、外国語センター、情報処理センターが主たる管轄部署となっている。</p> <p>留年者や休・退学者の把握は日常的に行われ、毎月実施している学生グループ会議および教授会で報告し、承認している。留年者および休・退学者の防止については、一斉出欠席状況調査を行って、欠席の多い学生の情報は、学生センター職員よりゼミの担当教員に報告や相談を行っている。</p> <p>外国語センターは英語などの語学、図書館にあるラピタデスクはレポート作成の支援、4号館では授業外学修全般および主体的・能動的学修の支援を行っている。</p> <p>また、研修を経た学生を英語ピアチューター（語学）、図書館ピアチューター（レポート作成支援）、ITサポート（PC利用についての支援）に採用し、学生による学生のための学修支援制度を行っている。障がいのある学生に対する修学支援については、障がい学生支援グループと学生相談グループが連携を取りながら行っている。</p> <p>経済面の修学支援として、共愛学園ともさくら奨学金、学業奨励奨学金、コース学業奨励奨学金、共愛ワークスタディ奨学金、共愛学園特別奨学金、災害修学支援金、海外留学奨学金の7種類の学内奨学金がある。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学の教育理念「共愛・共生の精神」を基に、地域社会で活躍できる人材として社会に送り出せるよう、全学年においてサポートを行うプログラムを実施している。共愛学園中期経営計画では「学生のキャリア支援」を掲げ、学生のキャリア形成、就職指導、卒業後のフォローアップまで総合的に支援を行っている。</p> <p>1・2年次では「キャリア・プランニング」という授業を開講し、自己の適性や社会の動向を踏まえた将来の進路について考え、それに向けての大学生活をデザインする。また、航空業界、情報産業といった業界について知るセミナーも開催している。3年次では具体的な就職活動のノウハウを初歩から指導する「キャリア・プランニングⅣ」や、学内で開催される「業界研究セミナー」が就職活動をサポートしている。</p> <p>なお、教職をめざす学生には、教職支援室が必要な情報の提供や支援・指導を行っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の身体の健康と衛生に関して保健室が中心に取り組んでいる。保健室は、養護教諭1名が常勤で勤務し、定期健康診断の管理と問題のある学生は校医と連携して個別対応を行っている。また、学内の数か所に手指消毒液とマスクを配置し、感染症予防に努めている。心の悩みについては学生相談室が担当しているが、養護教諭も構成員の一人として学生の生活支援に努めている。</p> <p>本学は、ハラスメントに対しては、非常に厳しく対応している。5名の学内委員と3名の相談員で構成されたハラスメント防止対策委員会を設置し、啓発活動および実際の調停なども行っている。本委員会は、その他のハラスメント（ジェンダーハラスメント、アカデミッ</p>

クハラスメント、パワーハラスメント等)にも対応し、啓発、防止、救済活動を行っている。

教職員には、セクシャルハラスメントガイドラインの作成および配布も徹底している。その他、スタッフ会議においてハラスメント防止研修会を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kyoai.ac.jp/?cat=5>